

第33期第6回社会教育委員会議 意見等整理表(案)

資料 3

枚方市教育委員会
社会教育部

項目	委員名	内 容	該 当 課 題	解決に向けたご意見	備 考
課題解決に向けた取り組み	松浦委員	高齢化社会の課題解決のための材料として、資料4・5と用意していただいているんですけども、資料4の最初の図が、中央教育審議会の中での課題を図解化したということで説明ありましたが、これは生涯学習という観点でまとめた表になっていますので、高齢化社会を考えるために、当然関係はするんですが、あまりこの場ではそんなに有効ではないのかなと思いました。というのは、やはりこういう図というのは、非常に方向性を決めてしまうインパクトがありますので、これはあくまでも知の循環型社会を目指すためのあり方として、循環し、完結しているんですね。でも、ここで今求められているのは、 <u>高齢化社会に根差して、しかも市の勢いがもしかしたら今後だんだん下降化していくかもしれないという前提に立ったときにどうすべきなのか</u> ということが問題になっていますので、むしろ現在の状況から将来を見通したときに、何か右肩上がりになっていくような図をイメージして、ではそういうものはどうなったら達成できるのかというグラフなり図なりをつくっていかないと、こういう限られた、あらかじめ知が循環するといっただけのものでは、ほとんど意味がなくて、むしろ何かそういう希望が持てるようなイメージだけでいいんですけども、そういうものに向かって、では何をすべきなのか。この段階でこういうものを投入したら、次はこういうことがのぞまれるのではないかとというふうな、何か見通しのつくようなモデルを提示していただいたほうがむしろいいのではないかと思いますし、これから我々も考えるときに参考になるのではないかと思うんですね。そういう考え方でいきますと、この資料の4の裏、2ページ目の4に、さまざまなコミュニティでの取り組みの例がありますので、こういう具体的なものを投入していく、そういうときにどんな成果があり、どんな問題点があるのか一つ一つ検証した結果が出てくるような、それと連動するような図があったらわかりやすいのかなという気がしました。	低成長時代を迎え、経済的な豊かさが脅かされる	希望が持てるイメージを持ち、見通しをもってそれをどう達成していくかを考えることが必要	
	松浦委員	つけ加えですけれども。その観点というのは、さっきもちょっと話したんですが、一番最初の課題1の経済的問題にかかわって、私は別に、経済の豊かさがなければ、それが前提とならなければいけないと言っているわけではないですが、特に経済的な豊かさをそんなにどうこう言わなくても成り立つ事業はいっぱいあるはずなんですね。ただ、 <u>一定の規模の大きさの市が、一定の規模の事業をするためには、一定の予算がかかるわけですので、しかも教育委員会の問題だけではなく市全体の問題になりますので、そういうことと連動しながら、さっきの話にもかかわるんですが、ある種縦割りを越えた地域、関係も持ちながら、市全体の問題としてとらえて、しかもそれとの連携の中で、有機的に教育委員会としては何ができるのかと、細かなレベルでは教育委員会が音頭をとらなければいけないと思うので、そここのところの連動みたいなことに配慮いただければな</u> という思いがあります。	低成長時代を迎え、経済的な豊かさが脅かされる	経済活性化のための、部局を超えた仕組み作りが必要	
	服部委員	社会教育とは直接関係ないですけれども、高齢者のシルバーの関係をやっているんですけども、所得というか、収入を求めている人たちが結構おられますね。こういう活動と収入とは直接結びつかないですけれども、そのあたりも少し考える必要があるのかなという気がしますね。ただ、 <u>社会教育からはちょっと外れると思うんですけども、リタイアしてもまだまだ、言葉としては収入、収入とは言いませんけれども、働きたいというのは、やはり根底には収入という問題があるのかなと。かなりの人が言っておられます。</u>	低成長時代を迎え、経済的な豊かさが脅かされる	高齢者の就労機会の確保は生活の維持の観点からも重要な課題	
	志保田委員	皆さんの話を伺っていて、何か仕掛けが必要だなというのを感じました。例えば、リーダーバンクというのがありますが、リーダーをバンクするだけではなく、リーダーを養成するような形のものが必要ではないか。例えば、図書館の場合なんかですと、リーダーを養成することは、利用者の自由ですから利用者を養成するなんてことはできないんですけども、そういう場所をつくってあげるというか、例えば図書館友の会、そういう形で図書館の要求を出していく。それから、図書館の余った、要らなくなった本を売る、そういう人たちが引き受けているとか、図書館は昔図書カードというものを使っていたんですが、今はコンピューターですから使いませんけれども、そういう図書カードのケースを、例えば、サンフランシスコの中央図書館なんかは並べて、そこに寄附をした人、あるいは図書館で働いた人の名簿をつくって、引き出しを利用して表示しているとか、そういういろんな仕掛けとありますが、 <u>リーダーないしは目立つことをするよう人をつくっていくということが、社会の中で必要ではないかな</u> と思うんですね。伺っていましたら、服部委員もおっしゃったような、参加はするけれどもリーダーにならないとか、西田委員もそういうことをおっしゃっていたときがありますけれども、それを何か仕掛けていくというためには、 <u>社会教育課のほうで、小さいにしろ予算とかをつけられる必要があると。確かに、みんな貢献してくれとか、ボランティアに期待するとかいうことはあるんですけども、例えば交通費も要りますし、そういったことで何かやりがいがある、おじいちゃん、おばあちゃんが、これで子どもに、孫に何か買ってきてあげたというふうな程度の、そういう果実があってもいいのではないかな</u> と思ったりするんですね。 私がやっています中之島図書館を学ぶ相互講座というのに来てくださる方に報酬が出る場所ではないですけれども、おこがましいですけれども、私のポケットマネーでお礼をしているんですけれども、結構喜んでいただいているというか、そういうのはあるんです。だから、何か、予算も苦しいでしょうけれども、組んでいただいて、リーダー養成をしていただけたらと思いました。	低成長時代を迎え、経済的な豊かさが脅かされる	社会教育や生涯学習に貢献する学びのリーダーを養成するためのリーダーの顕彰や活動資金の提供などの仕掛けが必要	
	服部委員	志保田委員もおっしゃられたように、 <u>ボランティアだから無料というのは賛成していないんです。もちろん高額な報酬は要りませんけれども、そうでないと、お金の余裕のある人しかできなくなってしまうおそれがあるので、最小限の交通費とか、その辺は必要ではないかなと。お金をもらったらボランティアではないのか</u> といったら、それは意識の問題だと思しますので、この辺はある程度考えていく必要はあると思います。	低成長時代を迎え、経済的な豊かさが脅かされる	より多くの人々にボランティア機会を提供するための活動に要する経費の一定の補助が必要	
	志保田委員	そうですね。しかし、それがまた悪くなってくると、何かある市では <u>低額の従業者</u> というのは有料ボランティアとかいって、和泉市でも存在したんですね。さっきほめていただきましたけれども、学校図書館のボランティアに行く人たちが有料ボランティアという形にしまして、それはいけないということで、正職化してくださいということにしたんですけども、 <u>非常に低額で働いていただいているという時がありました。ですので、確かに何かの形でしっかりとした保障が必要だ</u> と思います。	低成長時代を迎え、経済的な豊かさが脅かされる	ただし無償に近い労働力として扱われないよう注意が必要	

項目	委員名	内 容	該 当 課 題	解決に向けたご意見	備 考
課題解決に向けた取り組み	松浦委員	そこで、1つ観点として重要になろうかと思うのは、最終的な課題として、一番最初に挙げていただいている3つの課題のうち2つ目に、地域コミュニティという言葉があるのですが、このコミュニティが何なのかという吟味が少し足りないのではないかと気がしました。と申しますのは、資料5で挙げていただいているさまざまな取り組みの中の、特に4ページのリーダーバンクメニューとなっているのですが、このようなものを利用することは大変いいことだと思うんですね。ただし、いろんな自治体でこのようなメニューをいっばいつくって、講師なりを呼んできて、そこでいろんな取り組みが展開されていて、それなりの満足はあると思うんです。ただ、そのときに何が最終的に満足されているか。ああよかった、おもしろかったで大抵終わるんですね。こういうことというのは、私はほとんど地域の活性化に役に立っていないのではないかと考えていて、例えば講座の中のA1でてん刻をするというふうなことで一定の材料費を払って、講師にはそれなりの謝礼をして、興味のある人が集まって、てん刻して、ああよかったな、こんなものができたというので終わると思うんですね。 ところが、そういうことが果たして地域のコミュニティに当たるのかどうかというと、そうではなくて、課題の中の1番目にある低成長時代、経済的豊かさということに関係するんですか、そこに参加する人たちだけではなくて、例えばてん刻なら印材が必要で、そのためには石が必要で、石を押すために印肉が必要で、紙が必要で、彫るための刀が必要でということが関係して、いろんな材料に関係するんですね。そうすると、例えばそういうものをどこから調達してくるのか、どこにものがあって、それを枚方まで運んでくるためにはどれだけの流通があって、それが地域の経済なり商業と結びつくのかどうかということまで踏み込んだ上での考え方をしていかなないと、地域の経済に結びつかないと思うんですね。特に、工芸あるいは職人という人たちの力をもっと活用すべきだと私は思っていて、そういう人たちの持っているノウハウは、単にその職人の力だけではなくて、その職人を支える地域の経済力なり、生産力にかかわっているわけですね。そういうものを取り込む形によって、市に経済的な活性化を与える。単に、きょうはこの講義がおもしろかったではなくて、もっと根本的に支える、材料を生産する人、流通させる人、そういう他の地域とも結びつくようなコミュニティを形成していかなないと、単なる1つのメニュー、楽しかったで終わってしまう可能性がある。むしろ、そういうものをもっと突き抜けたような、新しい取り組みをしていかなければ、本来の地域的な活性化は生まれないのではないかなという気が私はしているんですね。その点ご検討いただいたらいいのではないかと気がしました。	低成長時代を迎え、経済的な豊かさが脅かされる 地域社会を支える地域コミュニティの衰退	単に地域人材を活用した事業を展開するだけでなく、事業に必要な材料等を地域で入手するなど、地域経済と結びついた活動に広げることで、経済的な豊かさの維持・向上への貢献、コミュニティの活性化に寄与できるのではないかと	
	松浦委員	特に、この中にある紙とか、踊りなんかもそうだと思いますけれども、いろんな技術、日本全体のクールジャパン戦略に結びつけるような、おそらく地域振興、実際のを生産、そして技術の伝承、そういうものにかかわる形のものにしていただければというような観点でお話ししたわけですね。			
	森山委員	子どもが小学校の時には、子どもいきいき広場にもかかわらせていただいていたんですけども、正直来る子どもというのは限られた人数で、毎回同じ子が来るので、ここに延べ人数とかが出ておりますけれども、実際問題はかなり限られたコミュニティじゃないかなという感じを受けています。これ自体が高齢者社会に対して、どういふふうなコミュニティになるのかというのがあまり見えていないんですね。実情はどうなんですか。子どもいきいき広場。地域の大人たちが講師みたいな感じで、毎週土曜日に、きょうはサッカーするよ、みたいなことで、子どもたちが集まってくるんですけども、20人、30人ぐらい、毎回同じ決まった子どもが来て、毎回同じ大人が教えるみたいな感じですね。たまには高齢者の方に来ていただいて、一緒に畑に行って、畑仕事したりとかいうのはもちろんあるんですけども、以前は毎週土曜日、どこの学校も多分やられていたと思うんですけども、今は月1回だとか、校区によって毎週やっているところもあれば、月1回しかできないようなところもあるようなことは聞いていますので、特にこれがあるからこのコミュニティが活性化するかというと、ちょっと疑問が残るかなと。これはこれで子どもの教育ということではすごく有効なことだと思うんですけども、これ自体がコミュニティの活性化になってくると、もうちょっと広げていかなないとつまらないかなという気はしております。	地域社会を支える地域コミュニティの衰退	コミュニティの活性化の観点から、地域の学校と子どもを中心として、高齢者と子育て世代を活動に結びつける実効性のある手法の検討が必要	
	中村委員	今おっしゃっていただいたように、最初始まったときに毎週土曜日にあつたときと、それから平成23年度でしたか、そこから変わって、うちの学校の場合でしたら、今は月に2回から3回やっています。毎週あつたときの主体は、初めの主旨のように、地域の大人がという形でスタートしました。ただ、だんだん地域の方たちも固定されていて、年齢が高齢化してきて、世代交代するとなったら誰がするのといったところで、代わっていく人がいないという現状の中、多分全ての小学校でこの子どもいきいき広場というのはされていますけれども、地域によってほんとうに違うと思います。地域の方が最初の主旨のとおりやられているところと、PTAが中心担ったりとか。うちの学校の場合でしたら、今中心に運営委員会をしていただいているのは、PTAの役員をやられたOBの方が引き継ぐみたいな形でされていて、事業も大体この月にはこんなことをしましょうとかということをやっているんですけども、地域との結びつきということから言えば、年に1度コミュニティ行事を、子どもいきいき広場と共催みたいな形にして、子どもたちのミニ運動会みたいな形をとっていただいているのが唯一かなと思います。地域の高齢者の方に来ていただいて、たこづくりをするとか、そういうことはありますけれども、ただ、子どもたちはいつも限られた子どもが来る。限られた子どもも来ますけれども、それと入れ代わりもあるので、いつもいつも同じ人しか来ないということはないんですけども、全ての学校で同じかといったら、実情は全然違うと思います。	地域社会を支える地域コミュニティの衰退		
	國光委員	今、松浦委員が言われた、きっかけという言葉で思いついたんですけども、松浦委員が言われたきっかけとは全然種類が違うんですけども、来年度(平成27年度)、枚方の小中学校は、全部の学校が土曜授業を年間3回やらなければいけないということになったんですね。これは、社会教育部ではなくて学校教育部が主導して、学校教育部の方針で全小中学校がそれをするということになったので、殿山第一小学校もうちの学校も来年度するんですね。これは大きいきっかけだなと思っていて、土曜授業の中身に、地域社会との連携とか、そういう視点を持ってやりなさいという制約もついているので、今まで中学校というと、地域との連携とかコミュニティとのつながりというのはすごく薄かった。ある意味、小学校までは、コミュニティというのは基本小学校区でつくられているので、小学校とコミュニティのつながりというのは、わりと密接にあるんですね。ところが、中学校というのは、2つ以上のコミュニティが合体した形で中学校区がつくられているので、すごく接点が少ないですね。しかも、中学校の場合は部活動があって、土日はほとんどの子はクラブで忙しいです。ですから、地域行事に参加する子はほとんど皆無に近い。そういう状況の中で、地域と切れていく最初の出発点というのは中学校だと思っているんです。小学校までは地域とつながっていますけれども、中学、高校、大学、この辺はもう地域と完全に若者は切り離れて育っていきます。そういう中で、地域との接点を持った土曜授業を来年からやらないといけないうこと、ここに出ているような高齢の方にかかわらず、地域の人とかいろんな人の力をかりて、どういう授業をつくっていくかなということ、今中学校は悩んでいるところで、そういうのをきっかけにして、新しいものをつくっていただけらなと思っています。	地域社会を支える地域コミュニティの衰退	地域とのつながりの再生を意識した中学校における土曜授業の活用	

項目	委員名	内 容	該 当 課 題	解決に向けたご意見	備 考
課題解決に向けた取り組み	松浦委員	今、國光委員から大変に面白いお話を伺いまして、中学生が地域から切れていく最初のきっかけになるという、大変に面白い、確かにそう言われればそうだなと思ったんですけども、ここで地域コミュニティという話を、ここでそういうことが重要視されているからそういう話を考えていたわけなのですが、ちょっと話が飛ぶようですけども、最近日本の歴史を見直そうということで、従来高校生は世界史が必修で日本史は選択だったと。これからは日本史を必修にしたかどうかというような意見が出ていて、検討に入るみたいなのですが、世界にこれから飛び立つとする日本人は、世界史の知識だけでも日本史の知識だけでもだめなわけですね。当然、両方の知識をバランスよく、地域から世界を見るような視点が必ず必要になってくるわけで、枚方も同じことだと思うんですね。 地域で育って、小学校まで地域というものに密接にかかわりながら、中学になれば、当然殻を破って外に出ていかなければいけないので、地域が広がっていく。さらに高校なり大学になればそうなるわけですから、そのときに、ほんとに世界に向かっていくのではなくて、地元というか、自分の足場はやはり枚方なのだと、そういう思いがあって、世界に向けて情報を発信できるようなあり方を考えなければいけませんから、例えば枚方のいろんな、ちょっと私は知識がなくてわからないんですけども、このいろんな製品とかが世界にどんなふう流れているか、実際そういう工場があって、外国とのやりとりをやっている人があれば、そういう人の話を聞くとか、あるいは大学に外国人がいれば、外国人の人とその立場から枚方のいいところを教えてくださいとか、地域と世界、地域と社会、枚方の地域を地盤としながらも、その周辺の地域やもっと世界まで見通したような関係を持ちながら、地域コミュニケーションというか、地域のコミュニティを考えていく、そういう視点があっていいのではないかなと。単に枚方だけとか、もっと小さなところ自治会とか、そんなものではなくて、そこを大事にしながら、そこに完結しない。そういう視点があっていいのかなと、今ちょっとお話を伺いながら思いました。	地域社会を支える地域コミュニティの衰退	自分たちの地盤である枚方を意識しながら、地元企業等の海外との関わりを学ぶなど、世界との関わりを意識した事業や、枚方に住む外国人から外国人から見た枚方について教えてもらうなど、世界から見た枚方を理解する事業などを通して、世界の中の枚方を考える機会提供が必要	
	服部委員	資料とはちょっと関係がないんですけども、高齢者と社会教育で、高齢者に参加してもらうといったときに、参加してもらう。例えば俳句にしたって、芸術にしたって、そういうところに重点を置いていくのか。もちろん両方でしょうけれども、ただそれはいいんだと。もっとあなたの知識なり技術なりをいろんな人に伝えてほしい。例えば、子どもに伝えてほしいとか、地域に伝えてほしいとか。その辺で、もちろん両方でしょうけれども、どちらに重点を置いていったらいいのかなという感じがしています。例えば、私がやっているハイキングなんかについて言えば、参加者というのは結構おられる。参加だけであって、ではあなた、何か企画してくれますか、どこか下見に行ってコース見てきてくれますかと言われると、もうほとんど皆無。これは、私はハイキングなんですけど、ほかにも種目を聞いていても、参加はするんですけども、リーダーはいやですと、そのような傾向が強いような、どの種目、団体もそのようなことを言っておられるんです。では、社会教育として取り組むときに、我々はこんなメニューをたくさんつくりますよ、だからどんどん参加してください、それが高齢者にとっての社会教育ですよ。言葉はともかく、いや、それではだめなんですと。あなた方がリーダー的になって引っ張っていくようなことを枚方市は求めているんですと。その辺どうなのかなというのがよくわからないところがあります。	社会生活における「つながり」の希薄化	これからの社会教育は、参加者を募る社会教育事業の提供だけでなく、自ら事業を企画し、実行するリーダーの発掘・育成を行うべき。	
	松浦委員	今の話、非常に面白くて、おそらく枚方市の問題というよりは、日本人のメンタリティにかかわることかもしれないので、どこへ行っても参加はするけれどもリーダーは嫌だということは見受けられることだと思うんですね。ただ、だからといって、それでいいわけではなくて、今後の高齢化社会に向けて何らかの手を打たなければいけないし、おそらく音頭をとるのもこういう地域の中では教育委員会にならざるを得ないと思いますので、当然地元で積極的にボランティアとか既にされている方もいると思うんですが、そういう方とうまくタッグを組み合わせながら、何か仕掛けみたいなことを持っていかないと、現在の日本人のメンタリティでは、すぐに私がリーダーしますとか、裏方しますとか、手を挙げる人はあまりいないと思うんですね。残念ながら、そういう仕掛けを何か考えていかないと、単にこういうふうなプログラムを用意しましたと、あとは好きにやってくださいと。集まった人も何となく聞いていただけで、あぁよかったと。それでは何の解決にもならないと思うんですね。 そうすると、ではどんな仕掛けが必要なのかということはかなり吟味しなくては行かなくて、特に高齢者になってくると、まずその場で出てきてもらうと。そして話をしてもらうとかですね。話をすると、何を話していかかわらないと。そういうときには、きょうはこういうことで模擬的な討議をしますとか、例えば今後の枚方市の高齢化社会に向けて、こういう課題を1つ今提示しますと。賛成側と反対側に分かれてこれからディスカッションしますと。あなたは強制的に賛成側にします、あなたは強制的に反対側にしますと、その立場でこの問題を解決してください、積極的に話をしてくださいというゲームをしますとか、何か仕組み、きっかけを与えないと、現在の日本人の中で、現場に何とかしてくださいと言っても、おそらく解決にならないと思いますね。そのリーダー役が教育委員会に求められていると思いますので、 <u>一歩踏み込んだプログラムを作成していただく</u> 。どこの自治体でもやっているような、ここに挙がっているのは、確かにどれもおそらく一生懸命されていて、すばらしいプログラムだとは思いますが、そういうことではもはや済まない状況になっていると思うんですね。もう一歩踏み込んだ仕掛けをぜひ何か考えていただければと思います。	社会生活における「つながり」の希薄化	地域活動を担うリーダーの育成を意図した、教育委員会と地元で積極的にボランティア活動に取り組む方たちの協力による、高齢者が参加しやすく発言しやすい事業の企画など、今まで以上に一歩踏み込んだプログラムが必要	
	西田委員	いろいろ講座を開いて、その中でコミュニケーションをとりながら、でもそれも1つの基盤になっていると思うんですね。大事だと思うんですけどね。そこからどう発展させていくのが市として大事ではないかなと思っています。	社会生活における「つながり」の希薄化	参加者を募集して実施する講座等を通して行われるコミュニケーションも重要であり、それをどのように発展させて地域づくりに結び付けていくかが行政の役割	
西田委員	「生き生きマイレージ」ありますよね。私、この間傾聴講座をボランティア活動したいと思って受けに行ったんですけども、 <u>受けた人たちの会合があるのですが、だんだん人数が増えて、どう運営していかかわからないような状況を目にしたので、こういうところは市の支えが必要ではないかなと</u> 思いましたね。集まっても、その会をどうまとめて進めていったらいいのか、そして依頼がきたときにどう対応していったらいいのか、組織づくりが必要ですよということを私は言わせていただいたんですけども、今はちょっと忙しくていけないんですけども、そのようなことも感じました。いろいろ市としてされているだけけれども、 <u>されていてもそれが育つような方向で進めていくことが非常に大事ではないかなと</u> 。私は久しぶりにそういう講座を受けたんですけども、感じましたね。	社会生活における「つながり」の希薄化	地域活動を支える人材の育成とともに、育成した人材が動きやすい仕組みづくりも行政の役割		

項目	委員名	内 容	該 当 課 題	解決に向けたご意見	備 考
課題解決に向けた取り組み	志保田委員	図書館のことでさっき言われたのは、中学校3校に司書を派遣し、指導に当たっているということを知ったんですけれども、どういった現状なんですかね。実際、中学校では。実態を、結果を聞いていないんですけれども。平成26年度に行ったわけですか。図書館として挙げられているのはその程度ですけれども、図書館というのは地域的にたくさんありますし、仕事もたくさんあるので、それはもう少しトータルに計画案が出てこないのかなと思うんですね。5カ年計画というのがあって、新たに組まれるという状況なので、今としてはあまり言えた問題ではないと思うんですけれども、例えば市の中の図書館のデータベース、ネットワークというようなこと、そしてそれが学校間の蔵書、レファレンス、そういうものを通じたデータベースがお互い交換できる。そういうふうなものをつくっていくのが、まずは発展的な市の中で図書館がやっていることの一つの例なんですね。ですので、そういったことが、学校との距離の中ではものすごく基本的なことになると思うんです。目録づくりとか、蔵書の整理とか言われましたけれども、配列とかそんなこともあるでしょうけれども、情報が、どこにどういものがあって、それがどう記録されているかということを図書館に押さえてもらうというのがあると思う。それは基本的にどこにいてもできるような問題ですけれども、学校に一々出向いて蔵書を確認しながらやっていく必要があるんです、相当の力が要ると思うんですね、中央図書館の。そういったことを含みとして、もっと根本的には、図書館の組織が変わるかもしれないし、総合的な計画を立てなくてはいけないということになってきたら、図書館協議会のようなしっかりとした、全体を見渡す組織が必要だと思うんです。こういう立派な社会教育委員会というものがあったりするわけですけれども、その下部組織でもいいから、図書館の中に館長の諮問機関としての図書館協議会というものが必要であると。法規的、条例的にどうしたらいいとなっているのかよく知らないですけれども、そういった組織があったほうがいいし、今後、特に図書館の管理制度が変わっていくようなときに、図書館自身が検討して、図書館自身がそれを主体的に自分たちのものとして実行していく、そういう組織が欲しいと思う。館長さんだけに任せておくとか、そんなのではなくて、館長さんを支える組織が必要であって、特にかつての図書館をつつた力というのは、僕たち枚方では住民運動だと思っているんですね、70年代からの。そういったものは、今は期待はできないかもしれないけれども、組織をつくることによって、それを補うようなことはできるだろうと思いますので、お手間かもわかりませんが、基本は担い手をつくっていただくことが大事だと思います。その中で設計していただいたら、こういう、一つ一つ出てくるんじゃないかと、もう少しトータルに出てくる。それを新5カ年計画にしてほしいと思います。	社会生活における「つながり」の希薄化	枚方の図書館が住民運動により作られてきた歴史を踏まえた第3次グランドビジョンの策定が必要	本件については、第3次グランドビジョンの議論の中で深めていきたいと考えています。
	嶋田委員	資料を見させていただきまして、先ほどもお話に出ていましたけれども、いろんな事業をされているというのはわかりました。それで、最初の資料1のところに問題点が3つ書いてあるんですけども、この問題点を解決するための仕事、手段としていろいろな取り組みがされているところはもちろんあると思うんですけれども、先ほどもおっしゃってましたけれども、そのときは、その時代に即したことで今のこれをやってみて、継続してやっていると。ほかのことも多分そうだと思うんですね。でき上がったときの目的と、今やろうとしている問題点の解決とは、またちょっと違うところも出てきているのではないかなと思っていますので、取り組み自身は素晴らしいものばかりだと思いますので、資料的にも見にくいとか、わかりにくいところもあるので、できましたら資料1のところに現状と問題点、また高齢者の社会参加による活力があるまちとか、住みたい、住み続けたい、持続可能なまちの構築というふうな目的も書いていますので、その目的に対しての問題点、その問題点を解決するための新しい形の、今あるものを生かしながら変化するようなものをつくってあげれば、参加者も増えるだろうし、意義のある取り組みになるのではないかなと思います。	※3つの課題に共通した取組案	時代に合わない事業を継続するよりも、その時々地域や社会状況等を踏まえて、今あるものを生かしながら新しい事業に転換していくことが必要	